



あまのこ

題字・河井道
2024年度 第5号
2025年3月12日発行

平和を掲げる恵泉女学園がこの時代に存在する尊さを、特に暗い出来事の報道に接するたびに思います。私たちはこの時代に何を見て生きるのかを教えてください。言葉があります。その言葉を、アメリカ大統領選挙後の敗北を認めるスピーチの締め括りにハリス氏が引用したと、テレビや新聞で報道されました。その言葉は「十分に暗くなって初めて星が見える」(Only when it's dark enough, can you see the stars)と、こう、マーティン・ルーサー・キング牧師の言葉です。(ハリス氏は、元の文脈とちよつと違うニュアンスで引用しました)

引用元のキング牧師のスピーチは、彼が三九歳で暗殺された前の晩のものです。彼の短い生涯最後のスピーチです。教会に大勢集まった人々に向けて語ったその題名は、「I have been on the mountain top」(私は山頂に登ってきた)。この題名からも、キング牧師は自分が殺されることを予感していたことが分かります。今も Youtube で聴けます。聴くたびに鳥肌が立つような内容のスピーチです。

彼は自分を旧約聖書のモーセに重ねて語ります。モーセは死ぬ直前、神様に導かれてピスガの山頂に登り、約束の地を見せられました。あれがずっと憧れて、目指して来たゴールだと、モーセははつきり見ました。けれど、自分はそこには入れずに死んでしまいます。そのモーセの人生に、自分を重ねるので、自分も(公民権運動の)約束の地がはつきり見えたが、皆と一緒にそこに行けないかも知れないと。

暗い時代に生きる幸せ

学園長 廣瀬 薫

そのスピーチの冒頭、キング牧師は、神様との空想の対話を語ります。神様から、「キング、あなたは人類の歴史のどの時代に生きたいか」と聞かれてどう答えるか、というのです。これは面白い質問です。皆さんなら、神様に何と答えますか。皆さんは、人類の歴史のどの時代に生きたいですか。キング牧師は人類史を見渡して考えるのです。古代エジプト、古代ギリシャ、ローマ帝国、そしてルネッサンス、宗教改革、リンカーン大統領の時代、など。そして、結局キング牧師は、こう答える、と言うのです。「神様、私は、二十世紀後半に、ほんの数年生かしてください。ほんの数分で幸せです」。つまり彼が実際に生きた時代にはほんの数年生きることを選ぶ、と言うのです。そして続けて、それは奇妙な答えに聞こえるだろうと言いま

す。国が混乱し、黒人は抑圧され、社会は悩み痛んでいる。何で、わざわざそんな暗い時代を選んで、しかもそれが幸せだなどと言うのか、奇妙に聞こえるだろう、と言う。そして言うのです。「なぜか私には分かる。十分に暗くなって初めて星が見える」。これがハリス氏が引用した言葉です。

キング牧師は、暗い時代にこそ、何が本当なのか、何が本物の希望なのか、神様はどのように働いているのか、はつきりと言え、今自分には見え

出来事は「主の訪れ」です。キング牧師は、正にその「主の訪れ」を見たので、誰も恐れず、何も心配せず、私は幸せです、と語りました。そしてその翌日、銃で撃たれて三九歳の地上の生涯を終えました。

今私たちには、星が見えているでしょうか。キング牧師は「十分に暗くなって初めて星が見える」と言う。世界の戦争のニュースを見れば、私たちは十分に暗い時代に差し掛かっているように感じます。だからといって、私たちは今の時代に生きたくないのではない。希望が見えないのではない。むしろこういう時代にこそ、本当の希望の星が見える、星が指し示すイエス・キリストが見える。何が本当かが分かる。自分の使命が分かる。それを実行できる。今神様がこの世界を訪れて何をしてくれるか分かる。だから私たちは、今を生きて幸せだ、と言える時代に生かされているのです。

二〇二四年度を終えて新しい年度に向かう私たちは、星を見て生きる者でありたいものです。「十分に暗くなって初めて星が見える」から、二〇二四年度を生きて幸せだったと締めくくりましょう。そして、私たちの人生を訪れるイエス・キリストを見て、神様と共に、誰も恐れず、何も心配せず、幸せな思いで、二〇二五年度に向かいましょう。